

MHF® I Connector

Instruction Manual

4	S23253	August 3, 2023	T. Takuno	K. Yufu	Y. Hashimoto
3	S18442	September 28, 2015	M. Abe	K. Shinozaki	T. Matsumoto
2	S15453	September 10, 2013	Y. Baba	K. Yotsutani	T. Takano
1	S13354	February 19, 2013	H. Kon	K. Yotsutani	T. Takano
Rev.	ECN	Date	Prepared by	Checked by	Approved by

弊社、MHF I Connector の取り扱いに際して、本コネクタを安全に御使用頂くことを目的としコネクタの挿入・抜去の手順及び注意点を記述致します。

【挿抜 JIG について】

挿抜を行う際、ケーブルコネクタ首部へのストレスを避ける為、下図形状の様な JIG（1 例）を御使用下さい。
ケーブル側コネクタには JIG 専用の引っ掛け形状が設置されています。

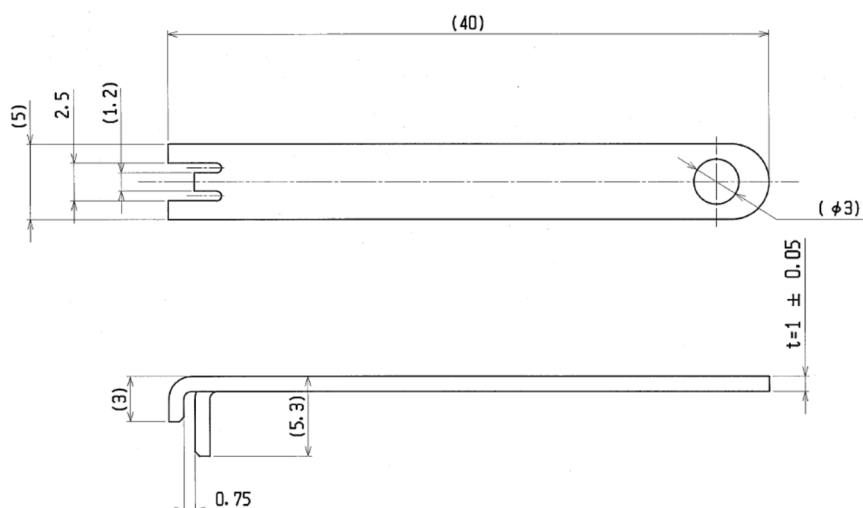


Fig.1 推奨 挿入抜去 JIG ※P/N: 90224-001

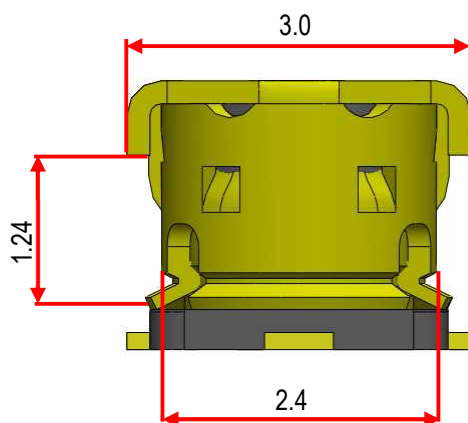


Fig.2 抜去 JIG 引っ掛け形状配置図

【コネクタ挿入手順】**1. 手で直接嵌合する場合****① ケーブル側コネクタの保持方法**

Fig.3 のようにケーブル側コネクタのケーブルを持ちます。

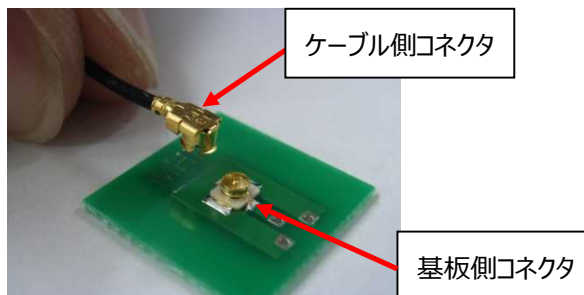


Fig. 3

② ケーブル側コネクタのセット方法

Fig.4 のように、基板側コネクタとケーブル側コネクタをセットします。セットしたら前後に軽く動かし、動かないことを確認します。

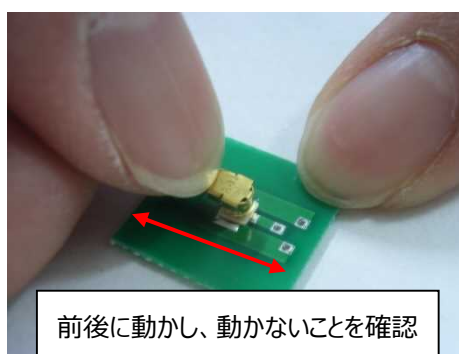


Fig.4

③ 嵌合方法

Fig.5 のように、ケーブル側コネクタのセンターを真上から押し、カチッという音がすると、嵌合完了となります。

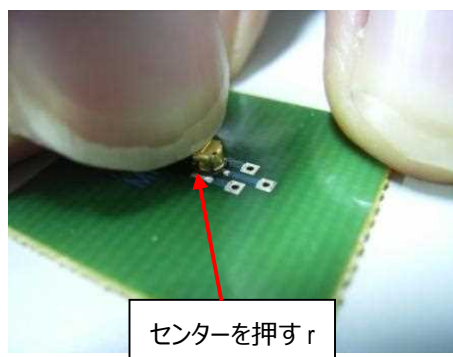


Fig.5

注意事項

- ・必ずケーブル側コネクタが基板と平行になるようにセットしてください。Fig.7 のように曲がったまま嵌合するとコネクタの破損の原因となります。

Correct connector mating
Parallel <OK>

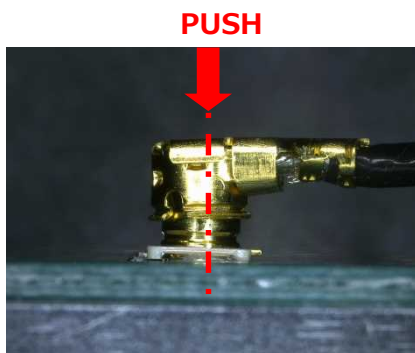


Fig.6

Wrong connector mating
Not parallel <NG>

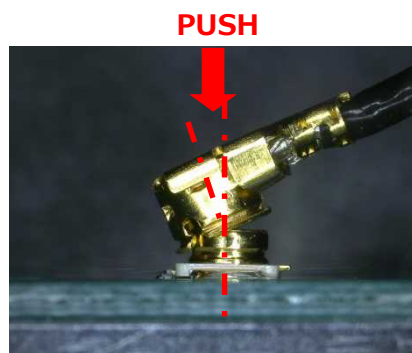


Fig.7

2. 挿抜 JIG で嵌合する場合

- ① ケーブル引き出し方向から治具を基板と平行にスライドさせてコネクタへセットします。(Fig.8-a)
- ② ストッパーに当たるまで治具をスライドさせプラグコネクタ全体を抱えるようにします。(Fig.8-b)
- ③ 基板(基板側コネクタ)に対し垂直に治具を押し、コネクタを嵌合します。(Fig.8-c)

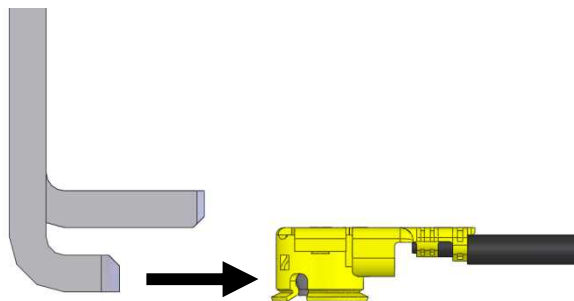


Fig. 8-a

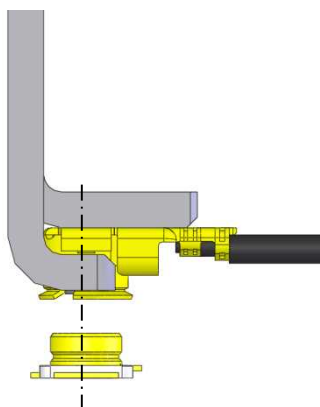


Fig. 8-b

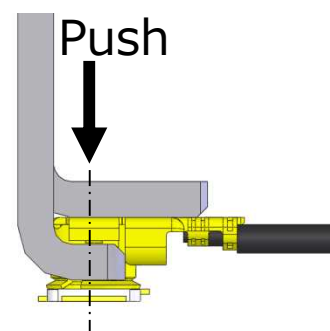


Fig. 8-c

【コネクタ抜去手順】

- ① ケーブルの反対側から治具を基板と平行にスライドさせてコネクタへセットします。(Fig.9-a)
- ② ストッパーに当たるまで治具をスライドさせプラグコネクタ全体を抱えるようにします。(Fig.9-b)
- ③ 基板と垂直に治具を引き上げ、コネクタを抜去します。(Fig.9-c)

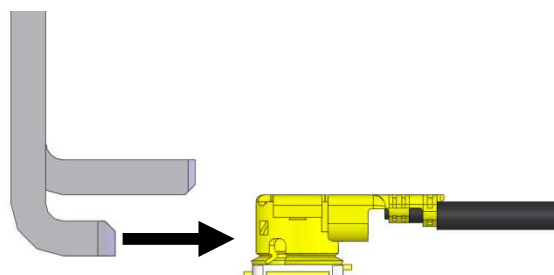


Fig. 9-a

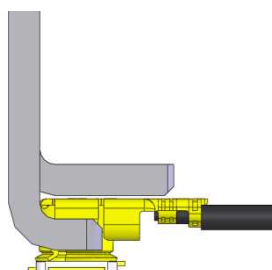


Fig. 9-b

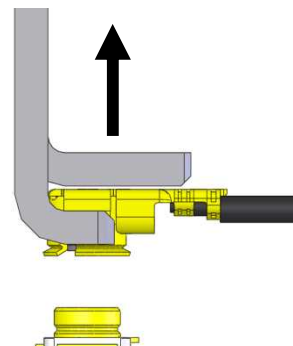


Fig. 9-c

【注意事項】

- ・ケーブルを引っ張りコネクタの抜去を行わないでください。
- ・治具は必ず基板と垂直に引き上げてください。(Fig.10)
- ・手で抜去する場合は、治具と同様に両端の引っ掛け形状を基板と垂直に引き上げて下さい。

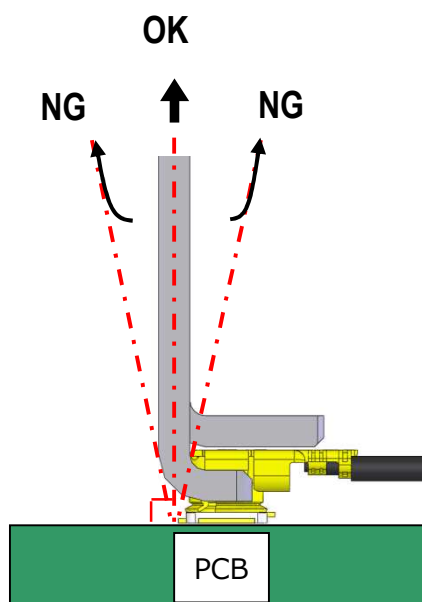


Fig. 10

【周辺部品配置の注意】

弊社検査用 SMA アダプタ(P/N 90539-001)を使用する場合、リセプタクルコネクタ周辺の部品配置は、Fig.11 の寸法を参考に部品を配置するようお願いいたします。

注意事項

リセプタクルコネクタを中心に $\phi 4.8$ 以内に部品を配置しないようお願いします。

検査時に周辺部品が検査用アダプタに干渉すると、部品の破損の原因となります。

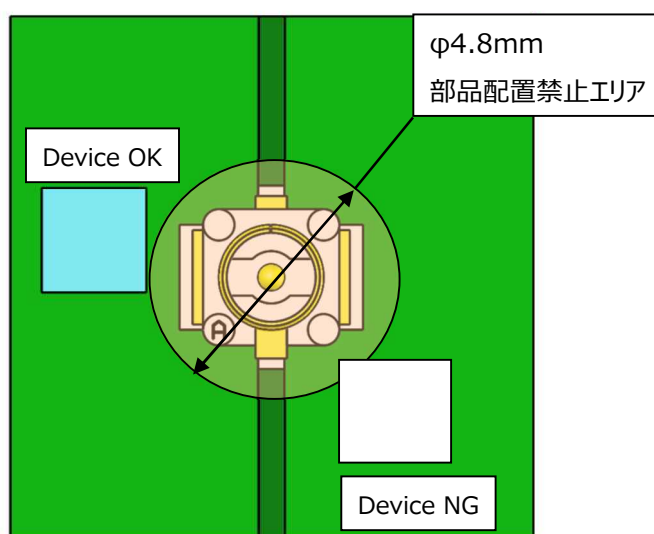
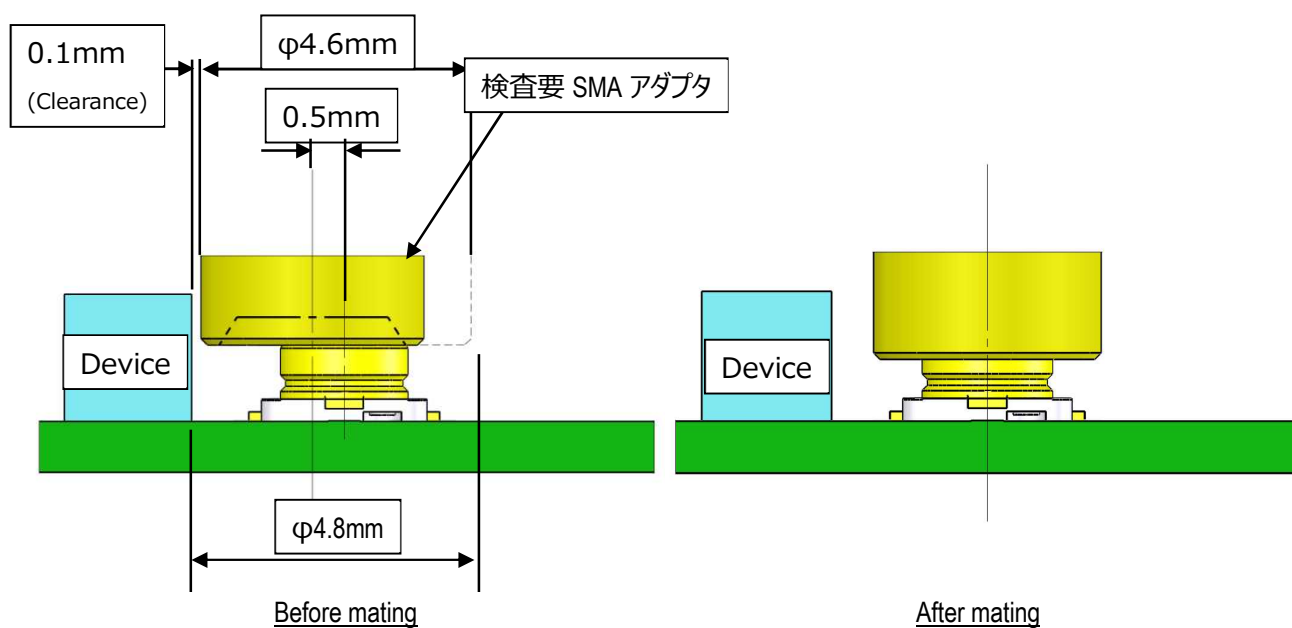


Fig.11

【コネクタ取り扱いの注意】

・Fig. 12 のように、矢印方向に常に力が加わるようなケーブルの引き回しを行うと、嵌合外れやコネクタの破損等の恐れがありますので、ご注意願います。

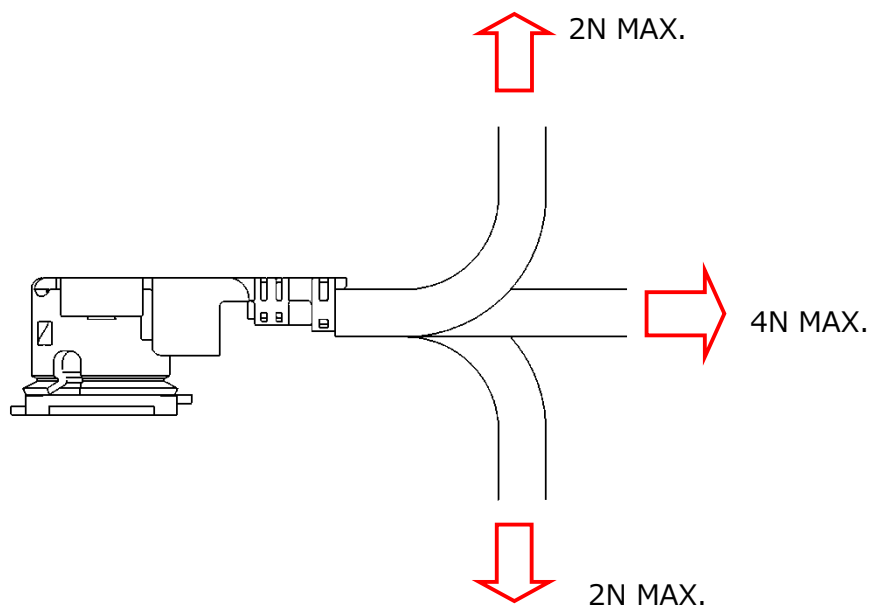


Fig.12

【リール取り扱いの注意】

Fig.13 のように、過度な力が加わるようにリールを掴むと、コネクタの変形や破損等の恐れがありますので、ご注意願います。



Fig.13